

(様式1)

令和6年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1) 学校教育目標	児童生徒一人一人の障害の状態や特性に応じた指導を通して、それぞれの可能性を最大限に伸ばし、自立と社会参加のための生きる力を育む。
(2) 現状と課題	児童生徒数の増加により、多様な障害特性に対応した指導及び自立活動の充実など、一人一人の教育的ニーズに応じた指導が一層求められている。学校経営にあたっては各関係機関との連携強化を図るとともに、地域の協力、保護者の参画による学校力の向上に努めている。
(3) 重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実</li> <li>キャリア発達を促す指導の充実</li> <li>地域と連携・協働した活動の推進</li> <li>連帯と協力による学校運営の推進</li> </ol>
(4) 結果の公表	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者に対して、学部参観日に学校評価結果について資料を配付し、説明した。</li> <li>ホームページに掲載している評価結果を更新する予定である。</li> </ul>

学校整理番号	特7
学校名	青森県立青森第二養護学校
対象障害種別	視覚・聴覚・知的・肢体・病弱
自己評価実施日	令和6年12月6日(金)
学校関係者評価実施日	令和7年2月7日(金)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校運営協議会委員7名 保護者1名、地域及び地域住民2名、 児童養護施設職員1名、 実習・進路先施設職員1名、青森市保健所職員1名、 学識経験者1名

自 己 評 価				学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	個に応じた教育活動の充実	①児童生徒一人一人の主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業づくり ②精神疾患や自閉症等、障害特性多様化への教育的対応の工夫 ③自立活動の指導内容・指導計画の整理と指導方法の工夫 ④ICTを活用した学習活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>「主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業づくり」をテーマに校内研究に取り組み、各学部で児童生徒の学びの姿に着目した学習指導について協議を重ね授業改善を行ったことで、児童生徒の学びに対する関心や理解がより深まり授業の質の向上につながった。</li> <li>県の「ICTを活用した自立と社会参加を目指す学びの推進事業」において、外部講師を招いての研修や児童生徒の学習活動に役立つアプリに関するミニ研修会を実施し教師のスキル向上が図られた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価の保護者アンケートはとて高い評価となっている。引き続き丁寧な指導に努めてほしい。</li> <li>昨年度の熟議で検討したことが、今年度の教育活動にしっかり反映されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各行事の在り方を含む教育課程の整備をさらに進める。</li> <li>全校研究や校内研修の成果を次年度の取組につなげ、教育活動のさらなる充実を図る。</li> </ul>
2	キャリア発達を促す教育活動の充実	①児童生徒の自立と社会参加を意識した指導内容の整理と指導方法の工夫 ②特色ある教育活動の充実 ③児童会・生徒会活動の活性化の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>実生活と関連させた学習活動の必要性を全職員で共通理解して指導にあたった。</li> <li>特スポへの中学部・高等部生徒の全員参加及び小学部高学年児童の応援参加、スポーツを通じた交流学習、全校児童生徒でのねぶた囃子鑑賞会やねぶた制作活動など、「スポーツ」及び「ねぶた」を題材にした学習活動を通して、児童生徒の人との関わりを広げることができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学部から高等部までの児童生徒が在籍している特別支援学校のメリットを生かし、系統的な取組を進めてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校行事や全ての学部で共通して取り組む教育活動において、各学部段階の目標や学習内容を整理し、全職員が共通理解のもとで指導にあたる。</li> <li>児童生徒が将来に対する見通しや目標をもつことができるように、上学年や上学部での学習活動、または地域の社会活動に触れる機会を工夫して設定する。</li> </ul>

3	関係機関等との連携強化	<p>①保護者や施設等との連携による指導の充実          ②地域の資源を活用した教育活動の展開          ③校内外への情報発信力のさらなる強化          ④特別支援教育における地域のセンター的役割を担う取組の充実</p>	<p>・参観日や連絡帳等を通して保護者や施設等との連携が図られた。          ・行事や各学部の学習活動において地域住民や近隣の民間事業所の協力を得て行う取組を設定し、児童生徒の実態に応じた内容の工夫や改善を図りながら実施した。          ・学校だより等を定期的に発行するとともに、行事や学習活動の様子を学校ホームページに掲載するなどして、積極的な情報発信に努めた。          ・教育相談の他に、「のようにここにコラント」を企画し、未就学児が学校での活動を体験したり養育や就学に関する保護者からの相談を受けたりする機会を設けた。</p>	B	<p>・地域での活動機会をより多く設けることが子どもたちの頑張りを地域に発信することにつながる。地域に出向くことだけでなく、地域の方を学校に招く機会を設けるのもよい。          ・地域の大学の学生と交流する機会を設けることは、児童生徒と大学生の双方にとって有意義である。</p>	<p>・保護者や入所施設と連携し、学校からの情報を分かりやすく伝え、相手の要望やニーズを把握して児童生徒の指導を行う。          ・放課後等デイサービス事業所などと日常的に児童生徒の状況を共有し、心身の安定を支えるための共通の指導や支援を行う。          ・児童生徒のニーズを把握し、地域資源の情報を収集した上で、各学部段階に応じた地域交流活動を展開する。          ・学校ホームページ等を活用し、学習活動や進路情報、職員研修等に関する情報を積極的に発信する。</p>
4	教職員の組織力の向上	<p>①学部、分掌内と学部、分掌間の連携強化          ②学部主任等連絡会の連絡調整機能による学校運営の総合的な推進力の向上          ③いじめや体罰のない明るい学校をめざした全教職員の共通理解と協力体制による指導の徹底          ④「アップデートプロジェクト」による業務改善への取組</p>	<p>・会議日を固定することにより合意形成が図られ、円滑な学校運営が推進された。          ・児童生徒への指導において不適切と考えられる事案が発生した際、職員全員で情報を共有し、原因や望ましい対応について話し合う場を設けた。これにより、職員一人一人が問題を自分事として捉え、児童生徒の尊厳や安全に配慮した関わりへの意識が高まった。          ・アップデートプロジェクトの取組において、学校の課題となる9つの内容を設定し、職員がそれぞれ9つのチームを編成して改善策を検討した。</p>	B	<p>・教員の学部間の連携を図り、学部に応じた学習内容を系統的に設定するようにしてほしい。</p>	<p>・月40時間以上勤務する職員が多い状況であるため、業務運営が効率的・効果的になされるよう業務の平準化を図り、円滑な運用を推進するとともに分掌組織の連携をより一層進める。          ・業務改善に向けた職員への意識啓発を継続的に実施する。</p>

(11) 総括	<p>「教職員による自己評価」20項目の平均評価点が3.2、「保護者アンケート」19項目の平均評価点が3.6、「学校関係者アンケート」20項目の平均評価点が3.7であり、全項目の達成度の平均が教職員91%、保護者98%、学校関係者100%であることから、今年度の教育活動については「おおむね適切に実施された」と捉えることができる。また、各学部・分掌による学校教育目標及び学校経営の重点における達成度はB（予定通り実施できた）となった。          教職員の自己評価及び保護者アンケートの結果、学校運営協議会委員からの意見や要望を踏まえ、次年度は学部間の連携や放デイ事業所等の関係機関との連携を図ること、学校の教育活動に関する情報をさらに積極的に地域へ発信することに努め、保護者や地域の協力を得て教育活動を更に充実させていく。</p>
---------	---